

# はなの輪

広島市植物公園植物友の会

2021年7月-9月 通巻第168号



園長のおすすめ 2020年7月5日号より

## アリノスダマ *Myrmephytum selebicum* (Becc.) Becc.

アリノスダマは、フィリピン諸島とセレベス島に自生しているアカネ科の多年草。異様に太い茎の所々に、植物が自ら開けたとされる小さな穴が開いていてアリが出入りできるようになっています。花はとも小さいですが淡いヒスイ色のような、不思議な色です。

(園内位置：大温室)

[写真・文 世羅 徹哉]

## 園長のおすすめ

植物公園ブログでは、園長のおすすめを定期連載中です。

見ごろの植物や最新のイベント情報も掲載しています。



<https://blog.hiroshima-bot.jp>

今年もうだるような暑さが目前に迫り、うんざりという方もおられるかもしれませんが、今回は少しでも涼しく感じられるような水辺や水の中で生育する植物についてご紹介します。

ハンゲシヨウ (*Saururus chinensis* (Lour.) Baill.) は、本州～沖縄、朝鮮半島、中国等の低湿地に生えるドクダミ科の多年生植物です(写真1)。名前は、7月上旬頃に上方の葉が白くなり、半分化粧したように見えることから、あるいは二十四節気七十二候の1つ「半夏生(はんげしょうず)」の頃(7月2日～7日頃)に花が咲くことから、名付けられたとも言われています。花は小さく目立ちませんが、代わりに葉が白くなることで目立つようになっています。「半化粧」と言いながら、1枚の葉全てが白くなることもあります。葉が白くなるのは、一説には虫をおびき寄せるためとも言われています。花が終わる頃には葉は元の緑色に戻ることから、この説を補強する現象のように思います。



写真1

ガガブタ (*Nymphoides indica* (L.) Kuntze) は日本や朝鮮半島、中国等に自生しています(写真2)。絶滅が心配されている植物(広島県では絶滅危惧Ⅱ類、環境省レッドリスト2020では準絶滅危惧(NT))で、池沼に生育するミツガシワ科の多年生水生植物です。和名の由来は、葉が水鏡となる池を覆って蓋をした状態の鏡蓋(カガミフタ)が訛ってガガブタになったと言われています。水中にある葉柄の基部に蕾が付き、徐々に花柄が伸びてきて、水面に現れ、やがて水面から立ち上がって花を咲かせます。

花は白色で、花冠の内側や縁に白い長い毛がたくさん生えているのが特徴的です。この毛があることで、あたかも雪の結晶のように見えます。そのため、開花期は夏ですが、涼しい印象を与えてくれる植物です。英名は Water Snowflake と言い、雪の結晶のように見えることから名付けられたようです。よく似た植物にヒメシロアサザ (*Nymphoides coreana* (H.Lév.) H.Hara) がありますが、花の縁にしか毛が生えていないので、容易に判別することができます。こちらは、環境省レッドリスト2020では絶滅危惧Ⅱ類(VU)に指定されています。



写真2

アサザ (*Nymphoides peltata* (S.G.Gmel.) Kuntze) も日本や朝鮮半島、中国等に自生する多年生水生植物です(写真3)。こちらも環境省レッドリスト2020では準絶滅危惧(NT)に指定されている植物です。その名の通り、池や沼地の浅い所に生えています。水生植物で食用とされるジュンサイと同じく、食用にできるため、ハナジュンサイの別名もあります。アサザも花期は夏ですが、ガガブタやヒメシロアサザと異なり、黄色い花を咲かせます。毛はヒメシロアサザと同じく、花の縁にのみあります。



写真3

# 2021年7月～9月 展示会・イベント案内

7/17 (土)  
～ 8/31 (火)

## サマーフェア (水遊び広場)

天然芝の上で水遊びを楽しむことができます。  
(期間中の開園日は毎日開催。各回15分、雨天中止)  
時間：10:30、11:00、11:30、13:30、14:00、14:30

8/21,28  
9/4,11,18,19

## 夜間開園 (サガリバナと夜の植物の競演)

8/21～9/18の毎週土曜日と9/19 (日) は夜9時まで開園時間を延長します。サガリバナ等の夜咲く花や香る花の競演をお楽しみいただけます。

9/4 (土)

## 季節の園芸講座 (第2回)

冬～春咲きの草花の種まきから植え付け、水やりや施肥といった基本の栽培管理などについて、NHK「趣味の園芸」講師の職員が解説します。

## 展示会のご案内

新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、展示会・イベントを中止・延期する可能性があります。

冬虫夏草展～瀬戸内虫草団となかまたち～ 共催：瀬戸内虫草団	6/21～ 7/25	展示資料館
夏のカラフルリーフ展	6/23～ 7/13	展示温室
アリと生きる植物展 協力：伊藤蟻植物農園	7/17～ 8/ 1	展示温室
世界の食虫植物展 協力：広島食虫植物同好会	7/17～ 8/15	展示温室
特別企画展「ミツバチと花の“おいしい”関係 展」	7/31～ 8/31	展示資料館
変化朝顔展 協力：広島あさがお研究会	8/21～ 8/29	展示温室
薬用植物展	9/ 4～ 9/26	展示温室
私の好きな花たちの写真展 共催：新田写真教室	9/ 4～10/11	展示資料館
植物友の会植物同好会ロビー展示 協力：植物友の会植物同好会	9/ 7～ 9/12	展示資料館 ロビー

夜咲く花・香る花



ゲッカビジン



サガリバナ



イエライシャン



ツキミソウ

# Event Information 2021 7-9

植物園で開催されるイベントを紹介します

## 7月

うらら池よもやま話 (先着100名)  
7月17日 (土) 午前11時～正午

アリ植物講演会 (先着100名)  
7月24日 (土) 午後1時半～

ミツバチ講演会 (先着100名)  
7月31日 (土) 午後1時半～2時半

## 9月

季節の園芸講座 (第2回) (先着100名)  
9月4日 (土) 午後1時半～3時

薬用植物展解説 (先着100名)  
9月12日 (日) 午後1時半～2時

植物写真撮影講習会 (先着30名)  
9月19日 (日) 午後1時～3時

## 8月

ミツバチと花の“おいしい”関係展  
ギャラリートーク (先着10名)  
8月3日 (火)・24日 (火) 午前10時～

食虫植物実演会 (先着100名)  
8月8日 (日) 午後1時半～2時半

変化朝顔展解説 (先着100名)  
8月22日 (日) 午前10時～11時

新型コロナウイルス感染症の拡大状況によっては、イベントを中止・変更する可能性があります。来園前に最新の状況を植物公園ホームページや電話でご確認ください。

\*毎週土・日曜日・祝日 午後1時半～3時20分は、ガイドボランティアが園内を案内しています

\*毎月第2火曜日・第4土曜日 午前11時～は、園内で職員による植物うんちくガイドを実施しています

## 作品を募集します〈募集開始は9月1日(水)からです〉

応募の詳細は植物公園ウェブページや各コンテストのチラシをご確認ください。

### 植物写真コンテスト

テーマ 広島市植物公園内の植物及び園内風景で未発表のもの。応募点数は一人5点まで。



第44回 最優秀賞「湯たんぽ」(アロカシア・クプレア)  
岩下 等さん

### ガーデニングコンテスト

募集内容 ハンギングバスケットやコンテナ(植木鉢などの器)に植物を自由に植え付けたもの、各部門50点。



第19回 グランプリ「ダスティーな秋色を楽しむ」  
瀬川 かつ美さん

## 盆花 Obon flowers [7/17 うらら池よもやま話 (先着100名)]



オミナエシ



ミソハギ



ヒゴタイ

お盆の時期に先祖を供養するために供える花を「盆花」と呼びます。特定の植物を指すわけではなく、手近で集められる野草（秋の七草など）の総称で、強い地域性があります。

7/17 (土) 11時~のうらら池よもやま話では、「盆花」をはじめとする見ごろの草花やうらら池の歴史などについて里山の野草園の担当が解説します。

## アリ植物 &amp; 食虫植物 Myrmecophyte &amp; Carnivorous plant



アリ植物コーナー (大温室)

ヒドノフィツム・フォルミカルム  
(切断した内部)

レカノプテリス・デパリオイデス



食虫植物コーナー (熱帯スイレン温室)



ヒョウタンウツボカズラ



ハエトリグサ

今年の夏休みは、世界の食虫植物展 (7/17~8/15) と併せて、アリ植物に特化した企画展 (アリと生きる植物展 7/17~8/1) を初開催します。植物のからだにアリが巣を作るという奇妙な生きものの営みをぜひご覧ください。会期中以外もアリ植物は大温室内にて常設展示しています。

# 7月～9月に見ごろを迎える植物



キョウチクトウ  
(駐車場ほか園内各所)



マンデビラ [チリソケイ]  
(カスケード)



ノリウツギ 'ユニーク'  
(ログガーデン)



アガパンサス・イナペルタス  
(花の進化園)



ヤナギバヒマワリ  
(花の進化園)



コウシュンカズラ  
(大温室)



ハイビスカス・ロバツス  
(大温室)



オオオニバス  
(熱帯スイレン温室)



ガステリア '巾広臥牛'  
(サボテン温室)



アネモネ・フペヘンシス  
(ロックガーデン)



ウンラン  
(ロックガーデン)



ヤチシャジン  
(里山の野草園)

外出自粛の生活の中で、花や野菜を育てる人が増えているそうです。植物公園では約1万種類の植物を栽培していますが、よく殖えるものもあれば、何度挑戦しても失敗するものもあります。おうち時間が増えている時節なので、とことん一つの植物と向き合ってみるのもよいかもしれません。熱帯植物で旅気分など、いかがでしょうか。[写真・文：久保 晴盛]

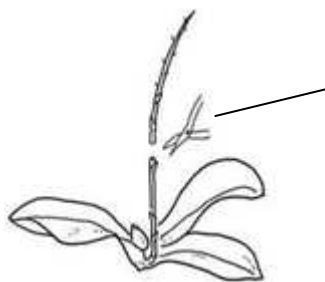
# Plant Doctor Q&A

植物公園では、緑の相談窓口を設置しています。  
家庭園芸のお困りごと、何でもご相談ください。  
[☎082-922-3600 金曜を除く午後1時～4時]

Q. 昨年いただいたミニコチョウランに花が咲き、楽しんでいますが、花後はどうすればよいでしょうか？

A. 花が終わったら、花茎を株元から切ります。晩秋～4月頃までなら株元から3～4節目の節の上1cm程度で切り戻して二番花を咲かせる方法もあります。二番花を咲かせる場合は葉の枚数が3枚以下のものや、葉が黄色くなっているものは株に元気がないので、二番花は咲かせずに花茎を株元から切り、株を回復させます。なお、花茎を切る際は、ライターなどの火であぶるなどして殺菌したハサミを使って下さい。

花茎を切った後も、18～25℃、レースのカーテン越しの光が当たるところで管理してください。直射日光に当てると葉が焼けるので注意しましょう。新しい花芽が伸びてきたら、光が当たる方向に株の正面を向けておくと、花の向きがきれいに揃います。株が自重で倒れたり、花茎が折れてしまったりしないように支柱に誘引します。このとき、花茎を折らないように慎重に行ってください。



下から3～4節目の  
節の上1cmのところ  
で切る

二番花を咲かせるとき  
の花茎切り戻しの方法

[図・文 田中 宏昌]

Q. 春バラが咲き終わったところに、地際から太い枝が出てきました。どうしたらいいですか？

A. 春バラの開花シーズンから初秋にかけて、株の地際付近から太い枝が出てくることがあり、これをベールシュートといいます。既存の枝よりもはるかに太くなることもあり、台木から発生する台芽と勘違いして切除してしまった、という人もいますが、ベールシュートは来年以降に良い花が咲く大事な枝ですので、折らないように大事に扱ってください。ベールシュートの処理の仕方は、一季咲きと四季咲きの品種では異なります。

一季咲き品種であれば、シュート発生当年は開花せずにどんどん伸びていくので、構造物などに仮誘引して強風などで折れないようにします。生育の途中で枝を曲げると、多数分枝し藪状になって、樹形が乱れてしまいますので、冬の誘引時期までは曲げないようにします。

四季咲き品種の場合、シュートが伸長し始めて1か月もしないうちに、先端に花芽を大量に付けます。これを咲かせてしまうと、シュートが消耗して、来年以降良い花を咲かせないばかりか、場合によってはせっかくのシュートが枯れてしまうこともあります。理想的には、花芽が付く前に先端をハサミを使わず指で軽くピンチしますが、花芽が付いてしまった場合は、花芽を全部取り去ります。その後も徐々に分枝しては花芽を付けますが、シュート発生当年は咲かせないようにして枝葉を茂らせると、翌年以降に良い花を咲かせる充実したシュートになります。

[文 泉川 康博]

Q. 庭のおモトの葉色が全体的に薄くなり、葉が枯れてきました。何が原因でしょうか？

A. 日射しが強すぎる可能性があります。オモトは元々山地の木陰に自生しており、耐陰性がある一方で強い日射しは苦手な植物です。特に夏の直射日光が数時間当たるような環境では、ご質問のような葉焼けを起こす危険があります。庭植えにする場合は西日が当たる場所を避け、木漏れ日のような柔らかい光が当たる環境を選ぶと良いでしょう。

オモトに限らず山野草や観葉植物、洋ラン類は特に夏の直射日光が苦手です。これらの植物の葉の色が薄くなる、葉が枯れるなどの症状が現れた場合は、置き場所の環境を確認し、日射しが強いようであれば鉢を移動させたり遮光したりする必要があります。斑入り品種は葉焼けを起こしやすいので特に注意しましょう。必要な日当たりの程度は植物によって、また、栽培環境によっても異なります。各家庭において、栽培中の植物が元気に育つ環境を探してみたいかがでしょうか。

[文 大矢 祐一郎]

## ひろしまはなのわ2020と植物公園

2020年3月19日から11月23日にかけて広島市中区基町の旧広島市民球場跡地とその周辺をメイン会場として第37回全国都市緑化ひろしまフェアひろしまはなのわ2020が開催されました。期間中、当園ではスポットイベントの会場として、花とみどりに関わる取り組みを行うこととなりました。

園に入ってから大温室までの階段通路（カスケード）に4～6月までの期間はカープ球団のイメージカラーである「赤」を基調とした花を集めてカープのロゴや鯉をデザインし、9～11月までの期間はサンフレッチェ広島のイメージカラーである「紫」を基調とした花を集めてサンフレッチェ広島のエンブレムをデザインして「ひろしま」らしさを表現しました。レストラン前の広場は4～5月にネモフィラで埋め尽くし、やわらかい水色の景色を創りました。

さて、緑化フェアが閉幕すると会場で使用された植物やアイテムがそれぞれの場所で第二の人生？を歩むことになり、当園にもいくつかの植物や資材が来園し活躍しています。

サマーフェアで噴水迷路を行っていたイベント広場では芝生が傷み、雨が降ると表土が流れてくぼみができるような状態だったのですが、緑化フェア会場からの芝生でかつての芝生広場に戻りました。これからは芝生にやさしいイベントで皆さんに楽しんでいただけたらと考えています。緑化フェアで「未来に向けた思い出年表」の通路に使用されていた瓦チップはベゴニア温室東側の園路沿いに敷き均して芝生と舗装園路の間をつなぐ役割を果たしています。イザナミの髪として使用されていた多肉植物、主にエケベリアですが、当園では水の枯れたカスケードの水路に寄せ植えをして水の流れや川面を表現しています。

そのほか緑化フェアで初めて目にしたような草花が何気なく来ていますので、なかなかフェアの会場に行くことのできなかった方も当園で楽しんでいただければと思います。

ちなみに、緑化フェアのマスコットキャラクターのめーでるちゃん（晩白柚に葉がついているのではなく、地球とみどりを表現しているとのこと）の最新式換気装置付き着ぐるみは不定期に登場します。出会えたらラッキーですよ。



写真1 イベント広場の芝生でお弁当を食べる子供たち



写真2 カスケードを彩る多肉植物

[写真・文 永木 利夫]

 広島市植物公園

広島市佐伯区倉重三丁目495

☎ 082-922-3600 📠 FAX 082-923-6100

- 開園時間 午前9時～午後4時半（入園は4時まで）
- 休園日 毎週金曜
- 入園料 大人510円、高校生および65歳以上170円、中学生以下無料
- 駐車料 軽・普通自動車450円、中・大型車1,400円



めーでるちゃん

